

◦ 6月2日 (火) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 続けます!】

学校の休校をきっかけに、おうち時間を有意義にすごしてほしいという思いから始まった#おうち時間で学ぼう。今日から再開館となりますが、利用に制限を設けざるを得ないので、もう少し発信を続けていこうと思います。

【#おうち時間で実篤を知ろう お洒落篇】

実篤を身近に感じてほしいよシリーズ、今週は実篤の「お洒落」にまつわるエピソードを紹介します。実篤はごわごわするものや柄の気に入らないものでなければ、身につけるものはこだわりませんでした。

【#おうち時間で実篤を知ろう 85】

着物の着方にも頓着しません。安子夫人は、夫人の帯留めを帯代わりに使っている実篤のうしろ姿を描いています。結べれば良いと、手近にあったものですませたのでしょう。

無造作な蝶々結びが、形にこだわらない実篤のおおらかさを感じさせます。気付かず裏返しのまま着ても目立たないよう、着物の裏側につける肩当てを地と同じ布にするように安子夫人が注文したこともあったそうです。

〈資料情報〉

武者小路安子

家族スケッチ「実篤後姿」

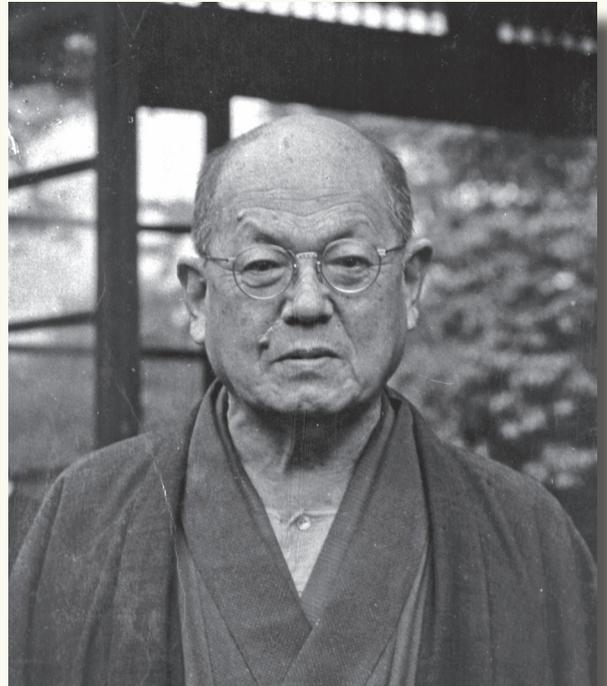
1942年頃 紙・鉛筆



◦ 6月3日 (水) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 86】

実篤といえば、眼鏡。当館で所蔵している4点のうち、3点を紹介します。遠近によって使い分けていたのか、フレームも様々です。二枚目の実篤がかけている眼鏡は、ブリッジのお洒落な左上のものでしょうか。



〈資料情報〉

1 枚目:眼鏡 3点・眼鏡ケース 2点 武者小路実篤愛用品

2 枚目:実篤肖像 昭和 20-30 年代

この機会に、職員の眼鏡と大きさを比べてみました。レンズが小さく、幅が狭く感じますが、どんな風に見えていたのでしょうか。今回、紹介していない1点は旧実篤邸の仕事部屋に展示しています。



◦ 6月4日 (木) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 87】

これは実篤が壮年以降に愛用した中折帽。実篤によれば、最初に中折帽をかぶったのは、夏目漱石のお葬式の日。いつもはハンチング帽をかぶっていましたが、それでは失礼だと思い、生まれて初めて買ったといいます。

文壇に先輩や指導者を持たなかった実篤ですが、漱石に対しては尊敬の念を抱いていました。中折帽をかぶった自分の影は、自分のものではないように見えたそうです。



〈資料情報〉

中折帽 武者小路実篤愛用品



◦ 6月5日 (金) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 88】

おらかな実篤ですが、時間は几帳面に守りました。愛用したのは腕時計ではなく懐中時計。いつも決まった時間に、時報に合わせてねじを巻いていたので、家中で一番正確なのは実篤の懐中時計だったそうです。

旧実篤邸の仕事部屋にも、文机の上に懐中時計が置いてあります。お越しの際は、ぜひそちらもご覧ください。



〈資料情報〉

懐中時計 武者小路実篤愛用品

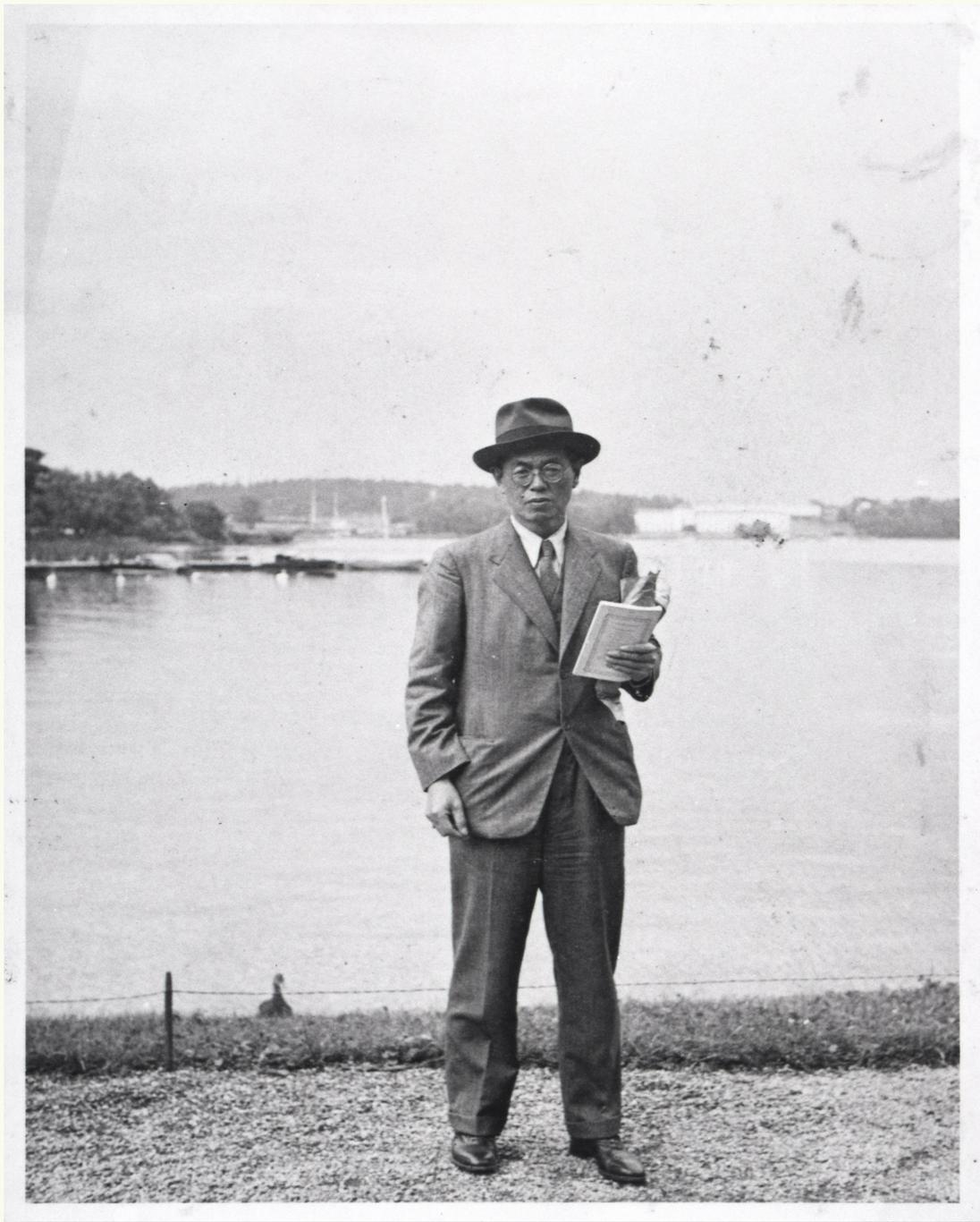


◦ 6月6日 (土) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 89】

実篤が着た服はほとんどが和服でした。昭和11年に欧米を旅行する時、初めて背広を着て「ポケットの多いことを感じた」そう。和服のたもとに何でも入れた実篤は、しまう場所が増えて不便を感じたのです。

ネクタイを結んだのも初めてのこと。欧米に行く前には、親友・志賀直哉や出版社の知り合い、隣の家の子医者など、様々な人に結び方を習いましたが、先生によって流儀が違い、戸惑ったようです。



〈資料情報〉

欧米旅行先にて 水辺で

昭和11(1936)年

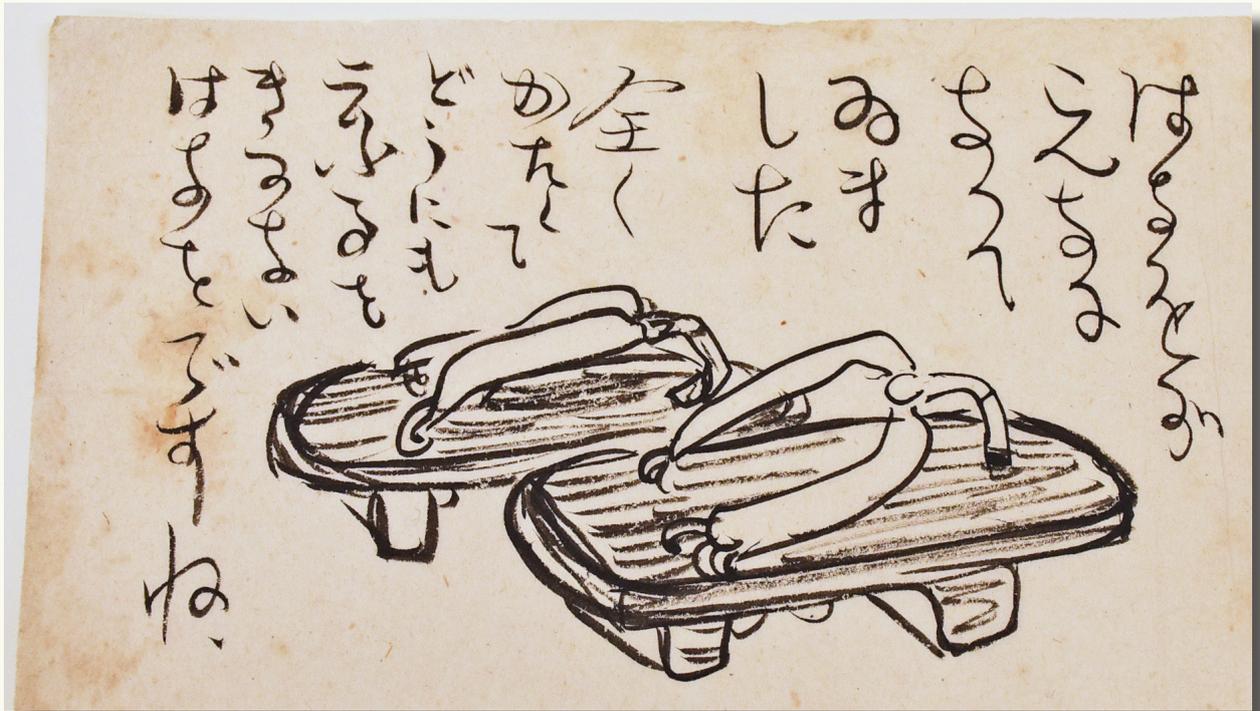


◦ 6月7日 (日) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 90】

歩くのが早かった実篤。若いころ、親友の画家・岸田劉生と議論しながら歩いていく様は、空を飛ぶ天狗のようだったとか。安子夫人は、鼻緒が伸び切ってしまった実篤の下駄を描いています。

「はなをがこんなになっていました 全くかたくてどうにも云ふ事をきかないはなをですね」と書かれています。



〈資料情報〉

武者小路安子 「伸びた鼻緒」

1945-55 年頃 紙本墨画

